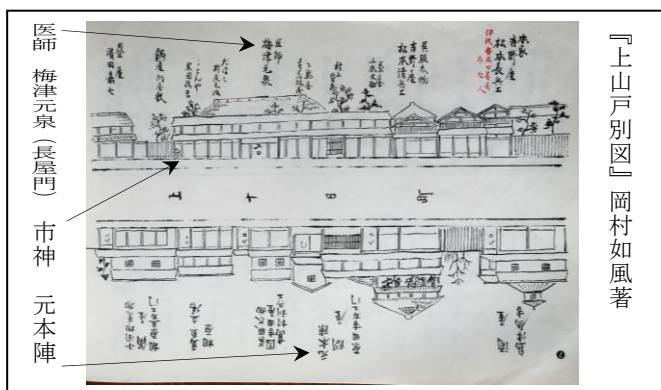


# かみのやま 歴史・文化財さんぽ

第40号（令和3年12月）

あゆむ「十日町だね。」  
ミドリ「にぎやかだわ。」  
文じい「昔は、上山で一番にぎわう通り  
じゃった。」  
ふみお「この通りが“羽州街道”だったん  
だよな。」  
ミドリ「あ、そうね。ここを大名行列や  
旅の人が大勢通ったわけね。」  
ふみお「昔、ここを前川が流れていたという  
絵図を見たことがある。」  
あゆむ「え、ここを前川が？」  
ミドリ「あら、それじゃあ川を移して道路や町に  
したわけね！」  
文じい「ふむ。確かな記録はないのじゃが、菅沼  
定昭さんという人が描いた絵図ではそう  
なっておるの。」  
ミドリ「そうだとすれば、殿様とかがまちづくり  
をしたわけね。」  
文じい「江戸時代となり、能見松平様が来て上山  
藩がスタートしたのが、元和8年(1622)  
じゃ。」  
ふみお「来年が2022年だから・・・」  
あゆむ「お、ちょうど400年前だ！」  
文じい「立藩400年じゃな。」  
ミドリ「そのあといろんな殿様が来るわね。」  
文じい「能見松平様から、金森様、そして、特に  
土岐様あたりで城下町づくりが完成し、  
今の町の基礎が出来上がったようじゃ。  
ここに昔の住宅地図を持ってきた。」



## とおかまち 十日町

### いちがみせきどう 市神石幢

あゆむ「おお、向かい合うように書いてあるね。」  
ふみお「昔の絵図はそうだね。」  
文じい「これは、岡村如風という人が書いた『上  
山戸別図』というものじゃが、ほれ、ここ  
に“元本陣問屋”というのが見える。」  
ミドリ「あら、お向かいね。確かに“本陣跡”とい  
う看板が見える！」  
ふみお「なるほど、ここが上山宿の本陣跡か。」  
ミドリ「そして、長屋門ギャラリーがあるわね。」



あゆむ「本当に長い屋根でできた門だな。梅津歯  
科医院という看板が立っているぞ。」  
ふみお「図には、“医師梅津元泉”と書いてある。」  
文じい「ここは江戸時代から上山藩のお医者さん  
として仕事をしていた梅津家じゃ。大正時  
代になり、13代目の清中先生は歯科医をや  
るようになり、それに、郡や県の議会議員、  
上山町長、医師会長などでも活躍された。」  
ミドリ「素晴らしい方なのね！ ここはそのころの  
屋敷なのかしら。」  
文じい「2階に診療室などが今も残っている。」  
あゆむ「今はやっていないんだね。」  
文じい「現在は、15代目が県外で病院をやってお  
り、時々こちらに来られるそうじゃ。」

ふみお「さあ、そして今日の目的の“市神様”だ。  
図にも市神の絵が小さく見える。」



のどの辺だったのかしら？」  
あゆむ「よし、行ってみよう！」



ふみお「昔、店が集まって物の売り買いをす  
ところが市場、つまり町の中心地だね。」  
ミドリ「今まであまり気にもとめていなかっ  
けれど、これが何か・・・。」  
文じい「市を立てる中心として商売繁盛を祈  
そして、これは“十日町の市神石幢”とし  
て市文化財に指定されておる。」  
あゆむ「ふうん。説明板があるぞ。」  
ふみお「永享3年(1431)に造立されたたと  
とは松山にあったものを、寛文年間(1661  
~72)に移されたたと伝えられている。」  
ミドリ「そして、上山大火の時、上部が後  
文じい「新しく付け替えられたということ。」  
ふみお「それから、地藏菩薩が彫られてい  
山四十八地藏の第四番十日町市神六角地  
蔵だって。」  
あゆむ「地藏様？ あ、この笠のような下  
ところがそうかな？」  
ふみお「六角だから六地藏？」  
文じい「ふむ、はっきりはしないがな。」  
ミドリ「ところで、もとのところというの

文じい「さあ、ここだ。」  
あゆむ「え、これ？ はっきりしないな。」  
文じい「元市神と言われておるが、もう少し  
方にあつたとも言われている。」  
ふみお「昔、こっちの方が中心だったんだ  
文じい「高楯城があり、城下に道が通り、ま  
開けておった。」  
ミドリ「そして、十日町に移されたのは？」  
文じい「月岡に新しく城ができて、城下町も  
られる。」  
ミドリ「買い物も必要になる。それで、市  
移されたということ？」  
文じい「そう。鳥羽池という相撲取りが背  
移したという言い伝えもあるようだ。」  
ふみお「市はどんなふうにかれたのかな。」  
文じい「二日町、十日町、新丁と代わり替  
かれたそうじゃ。」  
あゆむ「十日町というと、十日市を思い  
文じい「いいところに気づいたな。正月の  
初市として市神さまのお祭りが行われ  
いにぎわったそうじゃ。」  
ミドリ「今もやっているのかしら？」  
文じい「そう、やっておる。実は、梅津家  
祭りを催してきたんじゃ。今は、神事  
になったようだが、祭典記録を見せて  
らうと、蕪雑煮などをつくってもて  
てきていたのだそう。」  
ミドリ「そうなの。大事な歴史があつた  
あゆむ「よし、初市に行ってみよう！」